



スポーツを食い物にした五輪と電通

春日　当時の電通の中心人物は服部庸一という人物で、芸能界のプロダクションビジネスのやり方をスポーツ界に持ち込んだのです。その服部氏のやり方を横目で見ていたのが高橋氏だつたわけです。

玉木 ロス五輪の2年前に電通はアディダスと共同でISLという会社を作り、ロス五輪でコダックを出し抜き富士フィルムをスポンサーにするなど、オリンピックビジネスに参入し始めますね。

ic Partner) と呼ばれる、特別な企業だけにオリンピックのシンボルを使わせるシステムなどを創り出し、ロス五輪を成功させたわけです。

ユベロスばかりが目立っていますが、じつはUSOC（アメリカ合衆国オリンピック委員会）にジョン・クリムスキーというパンアメリカン航空社長（当時）が専務理事で入り、抜群のマーケティングセンスを發揮しました。五輪マーケットの使用権、一業種一社でスポンサー料を引き上げるシステム、の

流れも発見。招致委の理事長だつ

恒和元組織委副会長（元JOC会長）のことですね。フランスの司法当局は、ロシアがドーピング疑惑を揉み消すために世界陸上連盟のラミン・デイアク元会長へ渡したカネの流れを調査していた。すると東京五輪招致委からのカネの

玉木　東京2020五輪組織委に
関する贈収賄事件の捜査が広がり
続けてますが、春日さんは事件の
一報を聞いたとき、どう思われま
したか？

2020東京オリンピック スポーツ対談

スポーツを食べ物にした 筋輪と筋通

春日良一 玉木正之



た竹田氏からティアクへのカネの流れを疑つた。その結果、竹田氏は逮捕を怖れて外国へ出られなくなり、JOC会長とIOC委員も辞任しました。この一件では日本

かどうかは不透明です。組織委理事として高橋氏が自分のコンサル会社「コモンズ」を通して力ネを受け取った容疑で逮捕されたのと、よく似たやり方ですね。

側諸国がボイコット。オリエンピックは政治の材料に使われ、国際政治に翻弄され、存続が危ぶまれるまでになりました。

玉木 おまけに76年のモントリオ

022.11 ZAITEN 054

2020東京オリンピック スポーツ対談

スポーツを食い物にした 筋肉輸と筋肉通

春日良一 五木和政

A black and white photograph showing two men seated at a table, looking down at a document they are holding together. The man on the left is wearing a light-colored shirt and a dark tie. The man on the right is wearing a light-colored shirt and a patterned tie. A large, solid white 'X' is overlaid in the center of the image, obscuring the middle portion of the scene.

た竹田氏からデイアクへのカネの流れを疑つた。その結果、竹田氏は逮捕を怖れて外国へ出られなくなり、JOC会長とIOC委員も辞任しました。この一件では日本の司法は動かず、そのうちデイアクは去年の12月に亡くなりました。が、息子のパパマッサタ・デイアクが生きていてフランス当局は捜査を継続。今回の元電通専務の高橋治之氏の逮捕が、この事件につながるのかどうか？ 私が最初に頭に浮かべたことはそれでした。

玉木 東京五輪の前にも、リオ五輪招致委の会長で組織委会長も務めたカルロス・ヌズマンが、デイアク親子に約2億円を渡して五輪開催地投票のアフリカ票の取りまとめを依頼したことを、リオの司法当局が贈賄と認定して逮捕。一審で禁固30年9ヶ月の判決が出ました。それと同額のカネが日本の招致委からも渡っていた。

春日 リオの場合はデイアク個人への露骨なカネの手渡しでしたが、東京五輪招致委はブラック・タイディング社という会社を通じ、カネがデイアク親子に渡った

事として高橋氏が自分のコンサル会社「コモンズ」を通して力ネを受け取った容疑で逮捕されたのと、よく似たやり方ですね。

玉木 今回の事件は、IOCのオリンピック商業化の問題と、日本国内のスポーツ界の問題に分けて考える必要があると思います。

春日 そこが肝心だと思います。今回の高橋氏の一件は彼個人の特異な問題として捉える必要があります。オリンピックの商業化、スポーツ・マーケティングの抱える問題とは異なる視点で、デイアクトの収賄事件と同様、一時代前のスポーツビジネス搖籃期の古い体質の事件として捉えるべきですね。

玉木 五輪の商業化は1984年のロス五輪からだとされてますが、商業化自体が問題だとは言えない側面がありますね。

春日 はい。ロス五輪の4年前の80年モスクワ大会が、ソ連（現ロシア）のアフガン侵攻で、アメリカの Carter 元大統領を中心になって西側諸国約60カ国がボイコット。その報復としてロス五輪を重

側諸国がボイコット。オリンピックは政治の材料に使われ、国際政治に翻弄され、存続が危ぶまれるまでになりました。

玉木 おまけに76年のモントリオール大会がオイルショックから巨額の赤字を計上。84年大会の開催を予定していたイランにイスラム革命が起こり、パーレビ王朝が倒れて五輪の開催を望む都市がなくなり、IOCは過去（32年）に開催経験のあるロサンゼルスに開催を打診。ロス市議会は税金を1セントも使わない条件で開催を承諾。そこにピーターエベロスという辣腕の経営者が現れ、テレビの放映権料やスポンサー料を値上げし、聖火リレーも有料にして、約束どおり税金を全く使わず巨額の黒字を計上。すべてアメリカのスポーツ団体や慈善団体に寄付されて大成功となりました。

春日 ロス五輪は経済の力によつて政治の介入を阻止し、独立した運営ができるることを示したという大きな意味を持つ大会となりました。その後、紅余曲折がありましたが、この歴史的意義を忘れては

2022.11 ZAITEN 054

催され、高橋氏の名前が世界のスポーツ界に売れていった。

玉木 当時の世界のサッカー界は、たとえばW杯の90年イタリア大会では完全にイタリアのマフィアアが動かしていたという話を電通に勤めていた友人から聞きまし

春日 私は98年の長野冬季五輪の招致にJOCから特命参事として派遣され尽力しましたが、当時の高橋氏はオリンピックの世界ではまったく無名でした。01年にスキーリアード連盟の専務でJOC会長だった

春日 あれも中心になつたのは服部氏です。国立競技場に初めて宣伝看板を並べる交渉を文部省と行つたのは高橋氏だつたけれど、彼はまだ30歳代前半で中心人物ではなかつた。ただJSL（日本サッカーリーグ）が1試合千人程度しか観客を集められなかつたときには、国立競技場を6万5千人の観客で満員にし、2年後には第2回ワールドユース大会も成功させた。第1回大会はチュニジア開催で観客が入らず大失敗したのですが、第2回はマラドーナの活躍もあって成功し、FIFAも日本でやれば儲かると分かり、81年からトヨタカップが日本で始まります。91年には東京で世界陸上も開

春日 Jリーグは博覧堂でした
し、彼は興行の世界の人物ですか
らね。

玉木 02年の日韓ワールドカップ。
でも彼は少々奇妙な動きをしま
す。韓国と開催国を争っていた日
本はFIFAのアベランジエ会長
と手を組みW杯招致に動いたの
に、高橋氏は当時事務局長のブラ
ッター氏(後の会長)に近づいた。
春日 あの日韓大会も高橋氏の手
柄のように語られていますが、単
独開催を望んでいた日本としては
招致に失敗したわけです。実際、
開催国決定(96年)の投票直前の
票読みでは、欧洲サッカー連盟を
中心に反アベランジエの動きも強
くなり、韓国のほうが上回つてい
た。そこへ高橋氏が加わったのは、
ある意味先見の明があるとも言え
ますが、韓国が一国開催は無理だ
と言い出して、それで日韓共催に

トを受け取るのに、彼は現金を詰めたアタッシュケースを手錠で手首に繋いでローマの裏通りの指定された場所へ行き、同じようにアタッシュケースに詰めたW杯のチケットと交換したと。周囲には黒い背広の下に、拳銃を持つていそいな男たちがいて……（苦笑）。

春日　当時の世界のスポーツ界はサッカーがブラジルのアベランジエ。世界陸上競技連盟（現在のWA）会長がイタリア人ネビオロ。IOC会長がスペイン人サマランチ。各国内オリンピック委員会連合（ANOC）会長がマリオ・バスケス・ラニャというメキシコの大富豪でした。

玉木　ラテン・マフィアが世界のスポーツ界を牛耳っていると言われた時代に、そういう世界へ高橋氏は入つて行つたわけですね。

た竹田氏からデイアクへのカネの流れを疑った。その結果、竹田氏は逮捕を怖れて外国へ出られなくなり、JOC会長とIOC委員も辞任しました。この一件では日本の司法は動かず、そのうちデイアクは去年の12月に亡くなりました。が、息子のパパマッサタ・デイアクが生きていてフランス当局は捜査を継続。今回の元電通専務の高輪招致委の会長で組織委会长も務めたカルロス・ヌズマンが、デイアク親子に約2億円を渡して五輪開催地投票のアフリカ票の取りまとめを依頼したことを、リオの司法当局が贈賄と認定して逮捕。一審で禁固30年9ヶ月の判決が出ました。それと同額のカネが日本の招致委からも渡っていた。

春日 リオの場合はデイアク個人への露骨なカネの手渡しでしたが、東京五輪招致委はブラック・タイディング社という会社を通して、カネがデイアク親子に渡った

かどうかは不透明です。組織委理事会「コモンズ」を通して力ネを事として高橋氏が自分のコンサルを受け取った容疑で逮捕されたのと、よく似たやり方ですね。

玉木 今回の事件は、IOCのオリンピック商業化の問題と、日本国内のスポーツ界の問題に分けて考える必要があると思います。

春日 そこが肝心だと思います。今回の高橋氏の一件は彼個人の特異な問題として捉える必要があります。オリンピックの商業化、スポーツ・マーケティングの抱える問題とは異なる視点で、デイアクトの事件として捉えるべきですね。

玉木 五輪の商業化は1984年のロス五輪からだとされてますが、商業化自体が問題だとは言えない側面がありますね。

春日 はい。ロス五輪の4年前の80年モスクワ大会が、ソ連（現ロシア）のアフガン侵攻で、アメリカのカーター元大統領を中心になつて西側諸国約60カ国がボイコット。その報復としてロス五輪を重

側諸国がボイコット。オリンピックは政治の材料に使われ、国際政治に翻弄され、存続が危ぶまれるまでになりました。

玉木 おまけに76年のモントリオール大会がオイルショックから巨額の赤字を計上。84年大会の開催を予定していたイランにイスラム革命が起こり、パーレビ王朝が倒れて五輪の開催を望む都市がなくなり、IOCは過去（32年）に開催経験のあるロサンゼルスに開催を打診。ロス市議会は税金を1セントも使わない条件で開催を承諾。そこにピーター・ユベロスという辣腕の経営者が現れ、テレビの放映権料やスポンサー料を値上げし、聖火リレーも有料にして、約束どおり税金を全く使わず巨額の黒字を計上。すべてアメリカのスポーツ団体や慈善団体に寄付されて大成功となりました。

春日 ロス五輪は経済の力によつて政治の介入を阻止し、独立した運営ができるることを示したという大きな意味を持つ大会となりました。その後、糺余曲折がありましたが、この歴史的意義を忘れては

2022.11 ZAITEN 054